

# 前立腺がん

前立腺がんは男性特有の病気  
男性がん罹患率1位が前立腺がん、特に高齢者に多い。

一定年齢になると二人に一人の割合で発症するという。  
今では、それほど恐れる病気ではなく5年後の生存率は97%と  
限りなく100%に近い治療率である。

前立腺がんの危険因子のひとつは「年齢」です。  
50歳を過ぎると罹患率が急激に増加するため、  
50歳を過ぎたら1年に一度検査を受けることが推奨されています。  
70歳を超えた高齢男子は全員が要注意！

早期発見はPSA検査(1980年代に発見された検査方法)

**PSA検査**は採血で行われ、血液中にある前立腺に特異的なタンパク質である「PSA」の値を測定します。

前立腺がん検診で行われる簡便な検査のなかでもっとも精度が高い検査です。

PSAの値が高くなるにつれ、前立腺がんである可能性も高くなっていきますが、  
年齢により基準値が設けられています。

70歳～ 4.0ng/mL以下

PSAの値は、[前立腺肥大症](#)や前立腺炎でも高値になることがあるため、  
基準値以上の値が出ると、専門医を受診し、前立腺がんであるかを確定するための、  
より詳しい検査を受けることになります。

治療方法は三種類

- 1 手術
- 2 放射線
- 3 監視療法

3の監視療法は低リスクガン対応

2006年オランダで始まり、2010年から日本でも33施設が参加、香川大学が幹事大学

モンベル代表の辰野 勇さん(74歳)は2019年の末の人間ドックで  
前立腺がんと診断された。  
主治医と相談し、**最新の治療法「重粒子線」**の治療を受け(約3週間)  
その後、1年が過ぎたが、順調に推移している。